

第1回横浜市新たな劇場整備検討委員会基本計画検討部会	
日時	令和2年6月19日(金)14:00~16:00
開催場所	市庁舎18階共用会議室 みなと1・2・3
出席者 (敬称略) (5名)	本杉 省三 委員(劇場計画研究者(日本大学名誉教授)) 明石 達生 委員(東京都市大学都市生活学部教授) 倉田 直道 委員(工学院大学名誉教授) 立川 好治 委員(有限会社ニケステージワークス 代表取締役) 水野谷 良子 委員(株式会社ヴォートル 代表取締役)
欠席者 (敬称略) (0名)	なし
開催形態	公開(傍聴人6名/報道7社)
議事	(1)新たな劇場の施設概要の検討 (2)その他
資料	議事次第 資料1:委員名簿 資料2:席次表 資料3:令和2年度第1回横浜市新たな劇場整備検討委員会 基本計画検討部会資料 資料4:令和2年度第1回横浜市新たな劇場整備検討委員会 管理運営検討部会発言要旨

議事内容

1 新たな劇場の施設概要の検討

2 その他

【事務局】

- ・ 部会長には、委員会運営要綱第4条4項及び第10条第4項の規定に基づき、部会長の職務を代理する委員をご指名いただきますようお願いいたします。また、これより先は、委員会運営要綱第4条3項及び第10条第4項の規定により、部会長には議長として議事の進行をお願いしたいと思います。

- ・ なお、ここからは、カメラ、スマートフォン等による写真・動画の撮影は禁止とさせていただきます。報道関係の皆様は、所定の席にご着席いただきますようお願いいたします。それでは、本杉部会長、よろしくお願いいたします。

【本杉部会長】

- ・ では、ここから議事を進めてまいりたいと思います。部会長代理の指名をさせていただきます。昨年度より横浜市新たな劇場整備検討委員会の委員をお務めいただいております、行政実務と学術研究の両面に通じております、明石委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【明石委員】

(了解)

【本杉部会長】

- ・ それでは、議事に従って進めてまいります。なお、ご質問、ご意見については後ほどまとめて時間を設けますので、ご発言いただく場合は挙手していただき、お手元にありますマイクを使ってご発言いただきますよう、お願いいたします。また、発言のあとはマイクをお切りいただきますようお願いいたします。
- ・ それではまず、資料に沿って、事務局からご説明をお願いします。よろしくお願いいたします。

【事務局】

(資料3、資料4の説明)

【本杉部会長】

- ・ どうもありがとうございました。大変充実した資料なので、一度に全体を把握するのが大変とは思いますが、ご意見、ご質問等いただきたいと思います。
- ・ まず、8、9ページに記載されている第1回検討委員会の総括意見を踏まえた対応方針については、先日開催されました管理運営検討部会でも議論されています。これについては、先ほど報告があった通りです。本部会においても、これについてのご意見があれば

ばお願いしたいと思います。

- 先だつての運営部会では、プロから見ても横浜でやりたいと思えるような劇場にしてほしいというご意見や、人材育成について様々な意見が出たようです。これまでの検討においても、資料3の1ページ目に書いてありますように、横浜市はかなり以前から文化芸術創造都市としての活動を続けてまいりました。次世代育成や芸術フェスティバルなどもたくさん行っており、今年もヨコハマトリエンナーレ2020が行われます。また、地域ごとに様々な文化施設があり、このようなものの積み重ねの上に、今回の計画があると理解しております。特に優れた舞台芸術を展開していくことが、横浜の街あるいは経済にとって活性化につながっていくという視点で議論されてきたと思っております。
- もう一つ大事なことは、一過性ではなくて、持続的にこれを行っていくということです。それは非常に大切であり、また、大変なところでもあると思います。今年の検討委員会、そして部会においても、もう少し具体的に、施設の概要や事業の計画、あるいはその資金も含めて議論することになります。いかがでしょうか。

【明石委員】

- 私も検討委員会に昨年から参加させていただいているので、ここに書いてあることについて質問などがあるわけではないですが、資料に書ききれなかったところで言うと、横浜市は日本の政令市のリーダーなわけですが、いろいろな形で他の自治体をリードしていく、つまり日本を代表する自治体となる必要があります。第一級品の劇場をつくるというのは、一般の自治体にできる仕事ではないです。それを日本でだれがやるのかと考えると、政令市のリーダーとして使命感があるのだと思います。
- 検討の進め方に書いてあるように、施設の整備を想定して、その中で詰めていくことによって、本当の意義などが明らかになっていくと思います。そのような意味では、論点が具体的になり、議論がしやすくなったと思っています。

【本杉部会長】

- ありがとうございます。他にございますか。9ページまでに限らず、10ページから16ページの第3章に関することまで含めて、何かあればお願いします。

【倉田委員】

- ・ 検討委員会のまとめを拝見し、ある程度目指すべき方向が明らかになってきていると思います。私自身、横浜の文化芸術創造都市としての取組に着目してきていますが、成果をあげ、市民にもある程度浸透してきていると思っています。そういう意味で、文化芸術活動が横浜のアイデンティティというものにもなっていると思っています。その中で、そういった活動の新しい拠点ができるということは、横浜のイメージをきちっと構築することになると思いますし、ここに暮らしている市民にとっての地域プライドというものを作り上げていく一つの機会になるのではないかと考えています。
- ・ もう一つとして、世界的な質の舞台芸術のホールを作ることになっていますが、横浜であれば当然そういうことは必要だろうと思います。このような時期でもありますので、市民にとってどのような意味があるか、もう少し確認しておく必要があると思います。私自身は、市民にとっても非常に意味があると思っていますが、その辺をきちんと説明して、市民に理解していただくことが大事だと思います。最近の言葉でいうと、市民にとってのサードプレイスというのですか、暮らしの場、家庭の場、職場以外に人々が足を運ぶ場所のことです。そこに舞台芸術を通じて新しい交流が生まれるような場所ができるということが非常に大事だと思っています。特に、今回コロナを経験して、自粛という形で家で暮らしていた時に、あらためて考えると、自分が時間を過ごしていたところは職場と家庭しかなかったと感じています。少なくとも横浜規模の都市になると、そういった豊かな、それもできるだけ選択肢がある場を作っていかなければならないと思います。そういう意味で文化芸術の一つの手がかりにして、人が足を運ぶような場所ができるというのは、すごく大事であり、それが市民にとっても支持される大事な視点ではないかという気がしています。

【本杉部会長】

- ・ とても有意義な意見かと思います。市民の地域プライドを形成する、あるいはもう一度考えるととても良い機会ではないでしょうか。また、サードプレイスという話もありましたが、みなさんご存じのとおり、劇場に関しても世界中の劇場が今閉じてしまっています。私も今回、家にいる時間が多くなり、海外のオペラハウスやコンサートホールの、オンラインのオペラやコンサートを聴いたり観たりすることがありました。一方で、劇場の雇用が大変不安定になっており、とても有名なところでも、一定の職員、スタッフ

が一時的に解雇されている状況が世界で発生しています。振り返ってみますと、約430年くらい前のシェークスピアの時代には、ちょうどペストの大流行があり、シェークスピアが生きている間でもたしか2度くらいあったと思います。その時には今よりも多くの人がロンドンでも亡くなっています。正確なところは知りませんが、おそらく劇場も1年くらい閉じて、劇団も解散の目にあっていると思います。それでも、皆さんご存じのとおり、シェークスピアは現代でも世界中で上演されています。そして、その後もロンドンの劇場界は再生して、生き返ってきているわけです。宗教的、政治的な理由で閉まってしまったところもあるかもしれませんが、そういうことを思うと、まさに地域プライドとかサードプレイスということにつながってくる、それについて考える良い機会だと思っています。他にございますか。

【立川委員】

- ・ 私は、劇場の舞台の現場で50年くらい仕事をしてきました。最近のコロナ問題については、業界的にはかなり厳しい状態で、これから先、このような舞台芸術や実演団体を含めてどのように公演活動を続けていけるか、大きな問題を抱えています。それがコロナ後に端的に明らかになったことではありますが、それ以前にも、実演団体及びそれにつながるスタッフとして、大きな問題が出てきていることがあります。
- ・ その一つは、オペラやバレエ、特にクラシック関係の客層の高齢化です。これは、この先どのような形で若い世代に舞台芸術を見る機会、またはそこに参加する機会を作っていけるかが大きな課題であり、必要なものとして我々に突き付けられていると思います。これは特にこのコロナ以来、さらに明確になってきていますが、私は、若い世代、次につながる世代が本当に質の高い芸術を鑑賞し、またはそれに参加するという機会を作っていくということが非常に大事なのだと思うのです。今まで横浜になぜ大きな劇場がなかったのかと、不思議に感じています。それはもちろん、神奈川県民ホールがあるということもあるかとは思いますが、その街の顔になる劇場というのが横浜には今までなかったと思います。そういうような街の顔を、みなとみらい地区にどう作っていくかということ、また、共演者も含めて、若い人たちにどう伝えていくかという視点で、大きな拠点になるような気がします。ぜひ横浜の顔となるような劇場ができればと、現場で働く者としては思っています。もちろん、予算的なことや様々な問題があると思いますが、それを克服して作っていただくだけの意義があるものだと私は強く思います。劇

場の施設をどうするかということは、劇場をどのように使っていくかということと不可分です。建物だけ、または何をやっていくかだけを検討してもなかなか浮かび上がってこなくて、それを複合的に、こういうものをこういうように上演していきたい、こういうレパトリーを作っていきたいということから、必然的に施設というものの像が浮かび上がってくると、現場で働いてきた者としては強く感じています。これまでもいくつかの劇場ができ、その一方、閉鎖されていくこともありました。このような劇場が増えていくのは、舞台上で仕事をしていく人や実演団体にとって大きな希望になると思います。

【本杉部会長】

- ありがとうございます。17ページ以降の、検討にあたっての視点、今日皆さんにご意見いただきたい主要な部分に入ってきたと思いますので、そちらも含めてご意見をいただければと思います。
- 先ほどご説明にありましたとおり、基本計画の論点として17ページの頭のところに大変重要なことが書かれています。最初の方に、基本認識として目指す姿勢や想像力のある、そのような劇場を考えようということが書かれています。そこでの活動が様々な人々の交流としての場につながっていくということや、そのためには、どういう劇場にしたらいいのか、どんな機能があり、どんな空間があり、そこでどんなことが行われるのかということについて、この部会の中で考えましょうということです。そうすることによって、3点目に書いてある選ばれる劇場、実演者から選ばれる、お客様から選ばれる、あるいは人々から、世界から選ばれるまちになる、そのためにどういう内容の計画が進められるべきかを、この部会でお話しいただきたいと思っております。資料には論点1から5までありますが、これらに関連した話のほか、これ以外の視点があればそれも含めてご意見いただければと思います。いかがでしょうか。

【水野谷委員】

- 昨日、東京芸術劇場が4か月間の休業のあと、はじめてお客様を招いて、オルガンコンサートを行いました。感染予防として大変な重装備で対策をして、100人のお客様をお迎えしました。先ほど高齢者のお話がありましたが、その中にはお年をめしたお客様も多数いらっしゃいました。このコロナの中、本当に待ちに待った日が来たというような、

そんな面持ちでお客様が来館し、我々も迎えられる喜びというのをあらためて感じた一日でした。これから少しずつ、100人が200人になり、400人になりという風に増えていくと思いますが、従来通りにはコンサートをやることができないことも考えていかなければいけません。劇場の方と話をしたのですが、オンライン配信が最近が増えていく中、劇場としてそれをどのように考えるのかと思っています。数人で話した中では、劇場にライブ感というものがあって、はじめて感動があるということ、オンライン配信でどこまで感動といったレベルを与えることが出来るかといった話が共通してありました。街に劇場があって、その劇場が賑わい、そしてそこで何か新しいものが生まれていく、その中には必ず感動というものがあり、その感動はその人間を支えていくというものになっていくわけです。演劇や音楽といったものは、一番最後まで再開しないと言われましたけれども、長いことこのような眠った状態が続くとは思えないと、昨日のお客様の顔を見て思いました。そしてアーティストの方も、熱のこもった演奏になっていました。このように、本当にそこに行きたいと思えるような劇場ができたならば、幸せの大きさが随分変わってくると思います。

- もう一つとして、これまでも人が集まる場所を作ろうと考え、いろいろと作られるわけですが、なかなかそれがうまくいっていないと感じています。どこに原因があるのかは一口では言えませんが、そこを十分議論できるといいと思います。資料の中にもありましたが、せっかく作るのだから中途半端な劇場はいらないといったご意見も、すでに専門家の先生方がおっしゃっているということがよく分かりました。本当にそこは議論を重ねていき、そしてすばらしい、10年や20年ではなく100年続くような劇場であってほしいと、期待をしています。

【本杉部会長】

- ありがとうございます。私もこの間、ウィーンフィルが公演し、20分の1のお客様しか入れなかったというニュースを聞きました。メトロポリタンも、ライブではないですがビデオ配信をしています。ロイヤルオペラも、ピアノ演奏やソリストが歌うといった内容をライブ配信していました。様々な試みが行われていると思います。劇場に限らず、クリエイティブなものというのは、その人だけが作るものではなく、お客様とともに作るものだと思うのです。そのため、お客様が一体となる感覚というのをどうやって作り出せるのかが非常に難しいところだと思います。しかしながら、今の状況が改

善されるまでは、なかなかこれまで通りというわけにはいかないかと思います。徐々に、新国立劇場なども動き出すようですが、劇場の持っているエネルギー、力というものをどうやって結集していくかということを考えるには、この感動というものをどうやって共有できるかということがすごく重要であり、そのためには劇場がどうあるべきかということ、議論していただければと思っています。

【明石委員】

- 18ページに施設の構成イメージがあり、よくまとまっていますが、これを実際の配置にどう作っていくのが部会の役割だと思っています。その時の発想の仕方として、舞台を中心に見ていくやり方と、まちの方から見ていくやり方の両方のアプローチがあると思います。特に、表の玄関口の所と、荷物を運び込む所とはきちんと分けていかないといけないです。私の大学の大学院生に、みなとみらいにこういう計画があるのだがと聞いた際、明快に「立地としては文句はない。帰り際に寄るようなところではない。出かけるときには正装する、花束を持っていく人もいるようなところだ」と言っていました。まちに来て、劇場が目に入って胸が高まり、玄関のホワイエに入ってさらに気持ちが高まるというように、お客さんの胸の高まりといったシークエンスをしっかりと持っていくことが重要です。そう考えていくと、まちと両方の観点が必要になります。資料の中で動線について2つ紹介していますが、一つは新高島の駅を降りてキング軸からアプローチしていくというもので、それには、階高などを考えることも必要です。また、建物としての顔はどこなのか、どの角度で見てほしいのかといったように、この位置が重要なんだという位置が敷地の中で出てくると思います。
- もう一つの、横浜駅からのアプローチですが、YCATからと言った方がいいと思います。それは、海外から来るお客さんを含めて、そこがもう一つの玄関口だからです。
- その二つのアプローチから来る動線があるので、動線との関係で顔が作られてきます。その顔も、一つではないのかもしれませんが、そういう与条件を整理しておく必要があります。バックヤードも、周辺の施設状況も考慮し、うまく考えなければならないと思います。どこからアプローチするかによって、18ページに書かれている機能部分の配置計画や外から来る方角などが見えてくると思います。
- また、オペラとバレエでは、最終的に両方を狙うのは良いと思いますが、きちんと焦点を絞った方がよいと思います。バレエをやるなら横浜のここしかない、バレエについて

は妥協しないという計画で詰めていき、そのうえで条件を整理することで、何がどう大事であり、ここのところは外せないというところが出てくると思います。また、外からの動線は劇場の建物だけによるわけではなく、ほかのセクションの人たちと一緒に考えていかなければできないと思います。そのためには、同じコンセプトや目的を共有してもらい必要があります。

- もう一つとして、みなとみらいホールや横浜美術館と連携してと書いてありますが、そうではないと思います。なぜなら、みなとみらいは非常に広く、おそらくお客さんも、オペラやバレエを見に来る人とそれ以外の人などそれぞれ違うと思います。美術館のある所はグランモール軸、みなとみらいホールへ行くところはクイーン軸があり、最後に残ったキング軸をどう作るかということです。これらのゾーンは、それぞれ特徴を持たせ、劇場を作ることによって高島地区ならではのブランド・特徴を作っていくことで、連携というよりもゾーンごとにキャラクターを作り、そのキャラクターを作るのに劇場が大事な要素であると考えてほしいと思いました。

【本杉部会長】

- ありがとうございます。なかなか刺激的な話だと思います。それぞれに特徴を持たせることで、それぞれが一つの山、頂点になり、それら頂点がいくつもできることで、山脈になると、そういう考え方も当然あると思います。

【倉田委員】

- 18ページに施設構成のイメージを見て感じたことで、先ほどのサードプレイスにも若干関わってくるのですが、舞台や観客席は非常に閉じた空間になってしまい、そのままホールを作ると、周辺とは全く関係のない大きなボリュームの施設が出来てしまいます。創造支援エリアや交流促進エリアが非常に大事で、それをどのように配置し、それを介してまちとどうつながっていくかが大事になってきます。それは特に市民にとっても、舞台や客席があるだけだと、舞台芸術に関心のない人にとっては建物の塊があるだけになってしまいます。交流促進エリアというのを、まちとつながりを持って作ることで、それまで関心のなかった人たちも、気軽に立ち寄ることで舞台芸術にも少し接触する機会になり、そこから興味をもってもらいきっかけにもなります。そういう意味では、舞台と客席は英知を絞ればかなり素晴らしいものができると思いますが、大事な

は創造支援エリアと交流促進エリアの作り方です。そこを介して、もう少し色々な人たちがこの劇場に関われればいいと思います。これは、運営部会の方でも話があったように、特にバレエの場合、養成機関のようなアカデミーを持てばいいのではとの意見もありましたが、私もクラシックバレエのアカデミーを設計した経験があり、その施設は全国のパレエ教室から精鋭を集めて若いバレリーナの卵を寄宿させて養成する施設でした。そういう部分では、日本は人材を育成するシステムが貧弱ではないかと感じています。そのため、そのようなところができることには夢があります。

- ・ 明石委員から話のあった動線の話ですが、周辺施設を含めていろいろな機能が集積してくるので、舞台芸術だけではない、ひとつのゾーンとして捉える必要があります。みなとみらいをずっと見てきて感じていることとして、インフラはかなり整備されていますが、あまり人が歩いていないという印象が強いです。今回の施設においては、施設の中だけで出来ることではないですが、歩行者の回遊性に意識した動線、歩行者空間づくりをやってほしいです。周辺施設との関係もあるので、連携を図りながら、少しでも回遊性の高い気持ちのいい歩行者空間でないと、芸術文化を楽しむ環境としては、もう一つではないかと思っており、アフターの劇場での鑑賞、その前もあわせて楽しめる環境づくりが大切だと思います。

【立川委員】

- ・ 先ほどのお話の中で、劇場の客席と舞台はそれなりに閉じた空間になっていて、その周辺をどうするかというお話がありましたが、たとえば、ヨーロッパのオペラハウスではミュージアムのようなものが併設されていて、そこで使われる衣装や小道具、舞台模型のようなものを展示していて、そこを回っていくと、劇場の客席の一部がのぞけるようになっています。それは普段、知られていないような部分も、そのまま公開することになります。搬入の仕込みをしている時もありますし、明かり合わせやリハーサルしている時もあります。それを客席の一部からのぞくことで、劇場というものがどういう空間で、どこに楽しみがあるのか、そこが垣間見えるようになっていて、非常にいい試みだと思っています。
- ・ 客席と舞台は閉じた空間ですが、劇場にはロビーがあります。ロビーをどのような空間にして、どこまでオープンにするかで、劇場に対する親しみが変わってきます。例えば、観劇に来たわけではないが、みなとみらいを散策していて、劇場を見つけてロビーまで

入れるなど、あるところまでは出来るだけ劇場の内部を公開していく取組があればいいと思います。明石先生のお話でもありましたが、オペラとバレエでは、かなり昔はバレエのセットよりもオペラのセットの方が大きく、物量も多く重かったですが、最近では、バレエでもかなり大きなセットで、1幕2幕3幕で全てセットを入れ変えなくてはならないものもあるほか、オペラでもシンプルなモダン演出で、それほどセットの量が多くない、もしくは映像などを多用するものあり、それほど、オペラとバレエで舞台面に乗るものに大きな違いはありません。

- バックヤードとなる搬入口と舞台の位置関係や搬入物の仮置き場、仮組立場は非常に重要です。最近のバレエもセットの量が増えていることかというと、まちを走っている大きなトラックで、15台とか20台、多いものはもっとあります。その搬入搬出は、現場の時間の流れの中で大きな制約になります。搬入口と付随する仕込みの段取りでどのくらい時間が短縮できるかが、現場の大きな問題になります。この効率を上げることが、劇場全体の稼働率を上げることになると思っています。そのためにも、レベル的には、例えば降ろしてからリフトに乗せて3階まで上げるのは効率的にはよくないです。単館でトラックから、もしくはコンテナ、トレーラーから直接舞台面に搬入できるのは本当に時間の節約になります。
- 海外のオペラハウス、バレエ団との交流について、輸入してくる貨物のほとんどは横浜の港に上がります。それをそのまま劇場に搬入できれば非常にメリットになります。東京文化会館ではトレーラーの搬入ができないので、港でトラックに積み替えてトラックを劇場につけることになり二度手間になっています。

【明石委員】

- いま言われた搬入に関して、なるべく上下動がないようにとのことですが、もし劇場の基準階が少し高くなる場合はトラックを上にあげる必要があるということでしょうか。上下の位置がどこになるのかによって、いろいろなところに影響が出てくると思います。また、21ページに舞台の事例が書いてありますが、どういうパターンが一番使いやすいのでしょうか。

【立川委員】

- 搬入口の件では、ヨーロッパの劇場でも地上階に舞台がないところもあります。例えば、

ウィーンオペラハウス、スカラ座、パリオペラ座、コペンハーゲンもそうです。それぞれの事情に合わせて、アクセスできるようにしています。例えば、車ごと上げるリフトを持っているところもあります。それはそれで、大掛りで大変ですが、手間は減るのでメリットになります。

- 舞台機構の事例として、舞台の図面が書いてありますが、観客が見ている舞台面以外に、たとえばオペラで3幕あるとします。1幕は部屋のセット、2幕は大広間の宴会のセット、3幕は寝室の小さなセットとすると、そのセットを休憩中に、どのように入れ替えるかの利便性が一つあります。それは、そのまま舞台面自体が移動する場合もありますし、セットに車がついていて、人力やフォークリフトのようなもので移動する場合があります。いずれにせよ、他の幕のセットをどのように格納しておくかが大きな問題です。
- 東京文化会館は下手舞台に、そこそこのスペースがありますが、高さがないので、大きなセットが下手の袖に入りません。これだと、舞台面の中で処理できるセットしか上演できないという制約がでてきます。この制約を取ろうとすると、舞台と同じサイズのエリアが何面か、もしくは奈落が必要です。上下関係でいえば下に格納できる必要があります。しかし、これは大掛りなものになります。そのようなものを上演するのであれば、そういう機構を検討するのは不可欠です。

【明石委員】

- 他の劇場でそういうものを上演できる劇場はあるのでしょうか。

【立川委員】

- 首都圏で多面舞台を備える劇場はいくつかありますが、例えば新国立劇場の大ホールは、一般的に貸出はしていません。中ホールは空いていれば使えます。神奈川県民ホールは舞台面が3階にあります。搬入口は舞台の迫り機構を使って舞台面に上げるため、すべての搬入が終わらないと仕込みができません。それから、上手と下手に舞台面と同じくらいのスペースがありますが、真ん中に柱が立っているため、スペースはあるが取り回しはうまくいきません。首都圏エリアで、ある程度の規模の客席があり、自由にそのようなものを使用することができる劇場は皆無です。

【本杉部会長】

- ありがとうございます。そのほかありますでしょうか。17ページにもありますが、トレードオフの関係があったり、公開できる部分と出来ない部分や、全てがいい関係でつくるのが難しいこと、ホワイエに関しても、広ければよいと考える人もいれば、広いと散漫になるので混んでいる位の方が賑わいがあって良いという人がいたりもします。様々な考えがあっていいと思います。どういう雰囲気だったり、どういうことが出来るというということを、今まで話してきた内容をベースに議論できればと考えています。
- そのほかにございますか。もしなければ、今まで議論してきた中で、事務局の方から補足的な説明があればお願いします。

【事務局】

- ありがとうございます。若干の補足をさせていただければと思います。新しい劇場、横浜美術館、みなとみらいホールとの連携について、市はどのように考えているかということ、もう少し細かくご説明させていただきたいと思います。街づくりと聞くと「連携＝賑わい」というイメージですが、まずは賑わいの前に、芸術の創造力を高めていくためにこの三館の連携をどう考えていくのかと考えたところでございます。オペラもバレエも総合芸術ということで、例えば舞台の背面にある絵画もまさに美術のすべてですし、みなとみらいホールでやっているクラシック音楽というのはまさにオペラ・バレエのときの音楽そのものです。そういう意味で、三館の芸術性の連携としております。3つの施設の特性として、幸いなことに横浜市が所有をしている施設であり、いずれもしっかりとした芸術基盤ができているところです。それを閉じた空間にするのではなく、芸術同士の連携ということで、それぞれの創造力の向上につながれば、それは素晴らしいことであるため、書かせていただきました。
- 一方で、市民の参加という意味では、例えばフェスティバルあるいは次世代育成といったことをやってみることや、人材育成として、アーティストが育っていく過程の中で、オペラ・バレエに携わる人間も美術を知っていなくてはいけない、場合によっては歴史を知っておかなければいけない、様々な点での連携の要素があるかと思います。その説明が至りませんでしたし、まだ研究不足でありしっかりとご説明ができなかったもので、この場で補足させていただきます。

- もう一点として、昨年度の議論の中では、単に上演ができればいいという劇場なのか、それとも芸術の創造力を高めていく場であるということにしっかりと向き合い、そのためにはどうすればよいかというところの議論が、やや足りなかったのかと思っておられます。立派なものが上演できるということも重要なことかと思いますが、その中で芸術の創造力を高めていくということを持続的にやっていくためにはどうすべきなのか、そのためにどういう舞台機構がいるのか、どういうハードが重要なのか、そのことがどのように市民の皆様に還元されるのかということが、劇場の重要な要素だと考えています。資料にはまだ書ききれていないですが、そのような点も考えておりますので、ご理解をいただければと思っております。
- 最後に、立川委員からいろいろな事例の話もありました。イギリスのロイヤルオペラハウス、訳すとROHとなりますが、現地に行った時に支配人の方から、「ROHの壁をつぶしたい」と言われました。どういうことかと言うと、ロイヤルというのは王室、そしてオペラ、ハウスとは閉じた空間、これらの3つをつぶしたいということです。つまりロイヤルの壁を下げたい、オペラという高貴な空間も少し下げたい、ハウスの閉じた空間も変えたいということで、外部から入れるショップを作ったり、衣装を縫う裁縫室をカフェの横でやっているなど、分けるというより一体的になっており、賑わいや創造力そのものもそういったところから繋がっていくということの表れかと思えます。そのような点もまたご紹介をしながら、資料も充実させてきたいと思えます。

【本杉部会長】

- ありがとうございます。今ご紹介いただいたロイヤルオペラは、建物は非常に古いです。何度か建て替えられていますけど、場所が非常にいいところにあり、今話していただいたように、人が集まるショップが入っています。特にグランドレベルは通り抜けられる様になっていて、元々あった花市場のところもガラス部分がオープンカフェのようなレストランになっていて、日曜日になるとダンスパーティーなどが行われています。また、年に何度かオープンハウスをやっており、子供たちが衣裳の端切れで工作したり、オペラやバレエの人たちが着た衣装を自分も着て写真を撮るなど、そのようなことを積極的に行っています。今お話しがあったように、敷居を下げよう、そして多くの人に来てもらおうということを行っています。

- それから、新しいところでも、まちに対して開いており、グランドレベルに舞台がなく、グランドレベルから一体的に屋上庭園まで自由に行き来ができ、人の流れができるような作り方をしています。そんな具体的な設計はまだ先で、我々が議論するものではないと思いますが、どういう施設の機能やイメージをもったらいいいのか、今日を含め、これから皆さんと議論し共有していけたらと思います。
- みなさんの方で言い残しや付け加えたいことがあればいかがでしょうか。なければ、時間も近づいてきましたので、私の方から、今日確認できたことや出てきた内容の要点をお話したいと思います。
- まず、統括意見を踏まえた対応方針について、事務局から説明いただいて、それに加えて皆さんの方からも、多くの意見をいただきました。劇場のもっている目標や意義、それからオペラ、バレエを核とした活動、これらを想像力をもって推進していくことにより、そこで切磋琢磨していくことで人材あるいは技術が育成していく、そういうことのお話が出てきたと思います。それが地域プライドにつながっていくと考える良い機会ではないかということです。
- それからもう一つは、機能のあり方について今後さらに深堀していくということです。特にまちづくりの関係、都市の話が多く出たと思います。劇場は非常に閉じがちな内容、機能ですけれども、出来るだけ都市と繋がっていくことで、多くの人に来てもらうという意味で創造支援エリアや交流促進エリアが大事であるということ。また、ロビー空間も活用して都市のつながり、街のつながりが積極的に展開できるのではないかということで、できるだけ幅広く、空間的にも公開していくことが大事なのではないかというお話がありました。それに伴って、広域的な意味で歩行空間をつくり、それとの関連の中で、この施設をどう位置付けていくのかななどを、今後考えていくことが大切ではないかという意見があったと思います。施設の中身でいうと、特に搬入の問題というのは、大きなものが出たり入ったりするので、効率性が大事だというお話がありました。
- 3点目として、今日の議論の内容というのは、私たちだけの検討部会の内容ではなく、管理運営部会と情報を共有しながら今後も検討していく、という確認ができたと思っています。
- 皆さんの方で更につけ加えたいことはありますでしょうか。ないようでしたら、最後に私の方から一つお願いがございます。もし委員の皆さんの方で、議論の参考となるような資料や話があるようでしたら、ぜひ事務局の方に情報提供していただければと思います。

ます。よろしくお願いいたします。

- では、議事はこれまでにして、事務局に進行をお渡しします。よろしくお願いいたします。

【事務局】

- 長時間のご審議、まことにありがとうございました。次回部会の日程につきましては、今後調整させていただき、あらためてご連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。以上をもちまして第1回基本計画検討部会を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。